

- I <生き人形から「芸術」へ>
松本喜三郎/江島栄次郎/二代 山本福松/平田郷陽 他
- II <マネキンにおける人体表現の展開>
フランス製マネキン(ベルナル・フォコン旧蔵)/毛利臣男 他

- III <からくりからロボットへ>
萬屋仁兵衛/ナム・ジュン・バイク/土佐尚子 他
- IV <現代の「ひとがた」>
四谷シモン/荒木博志/森村泰昌/吉田かつじ
鳥光桃代/太郎千恵蔵



「ひとがた・カラクリ・ロボット」展

ひとがたはひとがたの「ひとがた」を「ひとがた」としたのが

四谷シモン (機械仕掛の少女) (なるせ村田画廊蔵) 撮影 篠山紀信

1996年2月2日(金) — 3月3日(日)

開館時間=10:00-18:30(入館は18:00まで)
休館日=木曜日

助品川文化振興事業団
○美術館 東京都品川区大崎1-6-2
大崎ニューシティ2号館
TEL.3495-4040

主催・会場=助品川文化振興事業団 ○美術館

協賛=ATR知能映像通信研究所/日本シリコングラフィックス株
伊藤忠テクノサイエンス株/コンパック株/スリーコムジャパン株
松ソニー・ミュージックエンタテインメント

入館料=一般500(400)円/高・大生300(200)円/小・中生100(50)円
()内は20名以上の団体料金

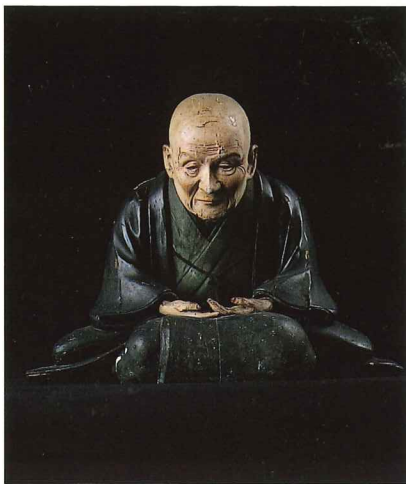
人形は、通常美術の中では、立体でありながら、彫刻とは異なり、工芸の一つとして考えられています。しかし人形は単に置物として存在するばかりでなく、見世物のような場から日常のより密接な関係まで、ある特有の雰囲気と精神性がそこには存在していました。日本の近代美術は、そのような作り物から西洋的な造形である彫刻として脱皮してゆく過程とかがえられ、人形は「工芸」といういわば美術の中では傍流の位置で扱われてきたのです。人形は「工芸」として認められながらも、そこでは近代以前に庶民の中でいぎづいてきた人形にまつわる独特のこころ持ちは、次第に押しえ込まれ、隠蔽されていったといえましょう。しかしながらこのようないわば「漂白」された人形の「工芸化」の一方で、そのような前近代的な人形特有の濃密な民俗的な感情は、いまお様々のかたちで変質しつつもわれわれのなかで生きているようにおもわれます。

生人形・菊人形のような風流ものの伝統の中で写実的な見世物が特に明治期において耳目を集めました。なかでも生き人形で著名な松本喜三郎はその関節の表現にみるように一方では一つの機巧という技術の点でも完成したものをしています。その後生き人形は昭和初期までマネキンなどにも応用されました。そのような見世物としての生き人形の流れの中から、伝統の人形づくりの体力を生かしながら芸術的に昇華したものとして、平田郷陽という近代における人形芸術の確立者が出ています。

また「ロボット」が昭和初期において早くも一種のブームがおこり、広範囲に庶民文化のなかに溶け込みました。それは、明るい近未来像を先取りするような新奇なからくり人形とおもわれていたことでしょう。そして人形芸術運動は、ロボットがさらにはマネキンが、人形として見られていた混沌とした時代から、それぞれの道をたどっていったこと軌を一にしていたのです。今日日本は有数のロボット工学の国となっていますが、他の国々に比べ、人型ロボットへの研究の多さには、ある特有の情熱が感じられ、最先端の科学にも前近代からの感性が今もいぎついているようです。

子供の玩具としての各種人形や、マネキン人形、またはアニメーション他にみるロボットなどのキャラクターイメージから、現代ではさらに人工生命としてコンピュータのなかで生きる仮想のひとがたまで、このような「現代におけるひとがた」は、姿を変えながらもわれわれの生活にまさに本質的な存在として根付いているのです。

今回は、われわれの身近に生きながら、これまで近代のなかで等閑視してきたこのような様々の「ひとがた」を、幕末・明治の生き人形から、近代における人形芸術が確立するまでを、またその後のマネキンにおけるイメージの変遷、そしてさらにはからくりの伝統をもつ我が国での今日的な展開としての人型ロボットなど今日的な身体感のゆくえを、約40数点で多角的に展示する事によって、積極的な身体表現の展開を見定める事で、われわれに存在するひとがたにまつわるある本質的な創造欲について考えてみようとするものです。



松本喜三郎《黄玄朴像》(19世紀)



平田郷陽《桜梅の少将》(1936・東京国立近代美術館工芸館蔵)



(フランス製マネキン) [ベルナル・フォン旧蔵、1940年代映七彩蔵]



ナム・ジュン・バイク《ロボット K567》(1993・ワタリウム美術館蔵)

- シンポジウム「人形・ロボットの欲望」
パネラー＝立川昭二/四谷シモン/増淵宗一
2月24日⑤ 14:00-16:00
〈日精ホール(大崎ニューシティ内)〉
- からくり人形実演「萬屋仁兵衛」
2月10日⑤・11日⑥ 11:00/14:00/16:00
- ナム・ジュン・バイク作品実演(1日6回)
開催期間中毎日 10:30/12:00/13:00/15:00/17:00/18:00
- 館外展示
島光桃代「宮田二郎」
2月17日⑤・24日⑥・3月2日⑤・3日⑥ 他
14:00から(24日のみ16:00から)



朝日川文化振興事業団

○美術館

東京都品川区大崎1-6-2
大崎ニューシティ2号館
TEL. 3495-4040

【交通】
JR山手線大崎駅(東1)下車徒歩1分
東急バス(大井町-荻谷駅)大崎駅下車徒歩1分
【駐車場】
美術館専用駐車場はございません。
お車でご来館の場合、「大崎ニューシティ」
地下2階の駐車場(有料)をご利用下さい。